

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

薬学データサイエンスセンター教育・研究委員会

(責任者名) 植沢芳広
(役職名) 教授

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	教務部教務課による学生アンケートの集計結果を薬学データサイエンスセンター教育・研究委員会によって検証し、履修の状況自体はよいことを確認した(様式3⑧)。また教務課が実施した学生対象のアンケートによるフィードバックを委員会で確認し、プログラムを履修する学生の意欲は総じて高く楽しんで課題に取り組んだ者も多かったこと、また一方で必ずしも全員にとって平易な内容とは感じられなかったことを確認した。
学修成果	生命創薬科学科で研究室配属に当たって、希望を受ける研究室側から「履修してほしい科目」に当プログラムの構成科目(のうちの選択必修科目)を挙げる教員が多くいることが学生に示され、それが学生によるデータサイエンスの重要性の認識と履修意欲につながったと考えられる。また学内に掲示しているIR室による調査解析結果に対して教員が質問を受けることがあり、プロフェッショナルによる解析を理解するスキルを身に付けた学生が現れ始めていることが確認された。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	教務部教務課による学生アンケートにおいて、プログラミングの実践においては「習うより慣れろ」と自ら気付くといったことのほかに、グループワークでの予習の重要性、PCリテラシーの知識、プログラミングの(一種のものづくりとしての)楽しさなどについてポジティブな意見があった。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	教務課アンケートではグループワークによって、学生間には大きなスキルの差があったと学生自身が回答しており、必ずしも万人に勧められるものではないという理解になっていると推測される。アンケートで寄せられた講義の実施についての意見には担当教員が回答して学内に掲示することで、翌年以降の受講学生(アンケートに回答した学生の後輩に当たる)の参考になるようにしている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	薬学データサイエンスセンター教育・研究委員会が定期的に学生の履修状況や授業に対する反応を確認し、生成AI等の普及による学生のスキルやその差の変化に応じて当プログラムをどう実施していくべきかを議論、確認している。当プログラムの構成科目については現時点で完成したと考えており、学生の様子を見ながら各科目の内容を毎年調整して継続していく。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>当プログラムは昨年度(令和7年度)に開始したものであり、現在までの卒業者にはプログラム修了者はいない。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>プログラム修了者がまだ卒業していないこと、プログラムの実施に学外の企業などの参画がないことから、産業界からの直接的な意見はない。しかし実務経験のある教員による科目の実施内容には、その実務経験を積極的に反映するようにしている。</p>
<p>教理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>1年生の演習では課題としてここ1～2年の社会問題や、本学の卒業生の進路として多い薬剤師業界、医療業界の話題の調査を設定したり、各学生のサークル活動などの学修以外のことをテーマに選べるようにしたり、また教員に送るメール文を作成したりなど、意義、実用性、楽しさを兼ね備える工夫をしている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>数学的に厳密な理解は高学年次の選択科目で扱うことにして、当プログラムの構成科目ではより直観的・定性的な理解を促すように工夫し、また学生間のスキルや知識に大きな差があることから、学生同士、あるいは大学院生のティーチングアシスタントによる説明を積極的に行うようにしている。</p>